

■ 「ICT地域活性化大賞2019」 優秀賞 受賞事例

みんなでつくるバリアフリーマップWheeLog! 【一般社団法人WheeLog】〈全国〉

1. 目的と概略

車いす利用者にとって、経験や情報のない場所に行くことは多くの困難が伴い、気軽に行きたいと思っただけに出かけられない現状があります。そこで、車いすユーザーの外出の不安を解消し、あきらめずに“行きたい場所”へ行ける社会構築を目的に、ユーザー投稿型のバリアフリーマップ「WheeLog!」アプリを開発しています。

2. 先進的な優良事例紹介

2.1 事業概要

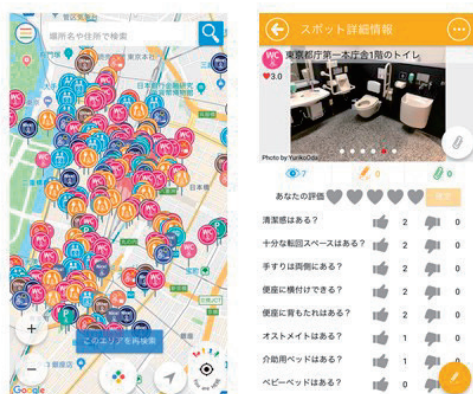
WheeLog!では、一つのアプリに施設などのバリア／バリアフリー情報と車いすでの走行情報（走行ログ）を集約し、バリアフリー情報のプラットフォームを構築しています。さらに、自治体のオープンデータを活用して情報を充実させるとともに、街歩きイベントなどの各種イベントを開催し、車いすユーザーや健常者等を巻き込みながら、情報の充実と社会全体のバリアフリーへの理解促進を行う事業に取り組んでいます。

2.2 コラム

① サービスイメージやシステム構成

WheeLog!は、スマートフォンやタブレットにアプリをインストールし、ユーザー登録を行うことで誰でも無料で利用することができます。

スポット情報



スポットカテゴリ





② 事業展開による効果・成果

定量的な効果 (2019年2月末現在)

- ・ スポット投稿数 15,386件 (写真 42,387枚)、総走行ログ 4,406km
- ・ 登録者数 5,945人 (内訳：車いす 1,795人、ベビーカー 502人、杖 249人、歩行者 3,408人)
- ・ 国や自治体、地域団体、教育機関等との街歩きイベントを開催 (参加者延べ 700人以上)
- ・ 東京都(499件)、東京都町田市(371件)のオープンデータ活用 (トイレ・エレベーター情報)

受賞歴

- ・ WSA（ワールドサミットアワード）グローバルチャンピオン2019
- ・ ICT地域活性化大賞2019 優秀賞
- ・ Zero Project Innovative Practice 2018
- ・ 東京都オープンデータアプリコンテスト2017 入賞&来場者特別賞

③ 事業展開のポイント

<独創性、先進性>

WheelLog!は、ユーザーが写真やコメントで情報の収集・更新を行います。また、リクエスト機能やつぶやき機能で知りたい情報を得ることもできます。情報の提供は歩ける方でも可能なため、誰もが参加できるソーシャルバリアフリーマップと言えます。そして、自治体等のオープンデータも活用しています。さらに、走行ログというスマートフォンのGPSを活用した、地図上に車いすの移動経路を記録できる世界唯一の機能も搭載しています。

<継続性、横展開>

バリアフリーマップは日本全国で必要なものです。現に各自治体などでバリアフリーマップを作成されていますが、更新がなかなかされないなどの課題があります。その点、WheelLog!は、ユーザーによる情報の更新が容易で、一つのアプリの中で継続的に更新し続けることができます。また街歩きイベントでは、地元団体主催で独自に街歩きイベントが開催されるなど広がりを見せています。

<効果的なICT利活用>

WheelLog!にはSNSの機能としてつぶやき機能があり、ユーザー同士がアプリ上でコミュニケーションをとることができます。そのユーザー同士が街歩きイベントで実際に対面して交流しており、ネットとリアルを融合させた効果的なICTの活用が行われています。

<住民等との連携・協力>

アプリを用いた街歩きイベントを、開催地域周辺の一般住民を対象に実施しています。その際、開催地域でバリアフリーマップ作成や福祉イベントなどに取り組んでいる団体や個人と連携・協力をしています。

<波及効果>

街歩きイベントでは歩ける方にも車いすに乗ってもらうことで、車いす目線でのバリアフリーの重要性について実感してもらっています。また、街歩きイベントを学校用にアレンジし、高校や大学の授業で車いす体験を通じたバリアフリーの学習を行っています。こうした体験を通して、普段車いすと関わりのない様々な世代に対し広く心のバリアフリーを推進しています。



特集2

ICT地域活性化大賞2019 受賞事例

2. 3 サービス利用者の声

車いす利用者からは、WheeLog!のようなバリアフリー情報が簡単に手に入るアプリがずっと欲しかったとの声や、今後情報がより充実していくことで、知りたい情報を簡単に得られるようになって助かるとの声を頂いております。また、歩ける方からも、街歩きで車いすでの移動が大変なことを実感し、バリアフリー化推進の重要性が理解できたという声や、今までは街のバリアフリーを気にしていなかったが、アプリを使うようになって積極的にバリアフリー情報を見つけ投稿するようになりました、などの声を頂いております。

2. 4 今後の課題と展開

引き続きより一層の情報充実を図るとともに、今後はバリアフリーマップ制作など、集められた情報を活用したサービスを提供していきたいと考えております。

2. 5 導入費・維持経費

ご要望に応じてご相談させていただきます。

〔問い合わせ先〕

- ・団体 一般社団法人WheeLog
- ・e-mail : info@wheelog.com (担当：織田)